

65 回 山口西田読書会
前回 (2015. 1. 31) のプロトコル (杉山元治)

出席者：佐野第教授、他 15 名

1. 前々回の議論要約

主客未分の分別とは；

- ・ 禅で言う無分別の事ではないか…。
～無分別が本当の分別であり、判断を下す以前の事。
- ・ 判断以前の分別とは；
衝突がない場合を言う (佐野教授、以下 Pro.)。
1-1-3「我々は少しの思想も交えず、主客未分の状態に注意を転じて行く事ができる」。

2. 自然の解釈

自然＝主観より独立した客観的実在としての自然は真の実在ではなく、自然の本体は直接経験の事実である (2-8-1 より補足説明、Pro.)。

実在はただ一つ (2-8-1)；

- まず個人があるのではない…意識 (現象) があって個人があるのであって、個人あって経験があるのではない。
- ・ 個人に一つずつ意識があるのではないか…。
無心にうちこむ純粹経験 (意識現象) が唯一の実在として、西田先生は出発された (Pro.)。

3. 哲学的問い (竹本 拓矢氏)： 「真の自己とはなにか」

2-8-4 自然もやはり一種の自己 (統一力) を具えている。

動植物、無機物も同様である。

「真の自己は精神に至って始めて現れる」。

真の自己は動植物の自己とは違う～人間にしか精神はない (Pro.)。

人間の自己と動植物・無機物の自己との違いはなにか；

- ・ 考えるか、考えないかの違いではないか。
 - ・ 反省するか、しないかの違いではないか。
- 衝突がおこって自分のしていることを判断 (反省) するところの違いである (Pro.)。

4. 第二編 第八章 第四節

「真に具体的実在としての自然は、全く統一作用なくして成立しない。自然もやはり一種の自己を具えている」。

～「つまり (その一種の自己とは) 一つの統一的自己の発現とみなすべきものである」。

～「自然の自己すなわち統一作用」。

5. 第二編 第八章 第五節

「自然の生命である統一力」について；

愛する花を見、また親しき動物を見て、ただちに全体において統一的或者を捕捉する。

…この統一的或者とは、例えば犬は犬として統一しているの意 (Pro.)。

美術家はかくの如き直覚の最もすぐれた人。

…この直覚とは純粹経験のこと (Pro.)

6. 第二編 第八章 第六節

自然の背後に潜める統一的自己とは；

「統一的自己とは我々の意識の統一作用そのものである」。

「我々の主観的統一と自然の客観的統一力とはもと同一である」。

「客観的にみれば … 自然の統一力となり、主観的にみれば … 知情意（理想・感情・意志；Pro.）の統一となる」。

これについて「よくわからない」とする方の意見としては；

- ・オーバーラップしていて判断できない。
- ・一部についてはわかるような気もするが。
- ・言い切ってしまうとそれまでなので。
- ・ケースバイケースなので。
- ・同じものと思いたいけど、理解できないので。

7. 哲学的問い

西田先生は「我々の主観的統一」と「自然の客観的統一力」とはもと同一とされながらも、「真の自己は精神に至って始めて現れる」と「我々の主観的統一」にある種の優位を与えておられる。

しからば、精神をもつがゆえに真の自己を具えている人間は、自然に対してどのような態度をとれば（どの様に接すれば）善いのか。また、なにかミッションがあるのだろうか。